



図 22.44 リンパ腫様丘疹症 (lymphomatoid papulosis)



図 22.45 節外性 NK/T 細胞リンパ腫 (extranodal NK/T-cell lymphoma)

5. リンパ腫様丘疹症 lymphomatoid papulosis

直径数 mm ~ 1 cm までの鱗屑を伴う紅褐色丘疹が体幹や四肢に出現し，中心に壊死や痂皮を伴うこともある．個疹は2～3週間で軽度の瘢痕，色素沈着を残して自然退縮するが，年余にわたって繰り返す，新旧の皮疹が混在する（図 22.44）．病理組織学的に CD30 陽性の大型異型細胞に加え，赤血球漏出，好酸球浸潤などを認める．未分化大細胞型リンパ腫と同一スペクトラムにあると考えられる．臨床的には良性疾患に近く，自然消退しない際にはステロイド外用，PUVA 療法を行う．

6. 節外性 NK/T 細胞リンパ腫^{はながた}，鼻型 extranodal NK/T-cell lymphoma, nasal type ★

主に NK 細胞の増殖による悪性リンパ腫．NK/T 細胞リンパ腫の大部分は鼻咽頭領域に生じ，転移巣として皮膚病変を形成する（続発性皮膚リンパ腫）が，皮膚原発のものもある．いずれも EB ウイルスの関連が示唆される．体幹や四肢に，潰瘍を形成しやすい局面や皮下結節を生じる（図 22.45），眼瞼および顔面や口唇の腫脹，口唇アフタ，凍瘡様皮疹などをみることもある．

7. 種痘様水疱症様リンパ増殖症 hydroa vacciniforme-like lymphoproliferative disorder ★

光線過敏症の一種である種痘様水疱症（13 章 p.234 参照）では，大部分の症例で EB ウイルス感染と NK/T 細胞の増加

血管免疫芽球性 T 細胞リンパ腫
(angioimmunoblastic T-cell lymphoma)

